

平成25年度 施政方針



▲ 平成25年3月議会本会議

2月21日開会の鹿屋市3月議会定例会で、嶋田市長が市政運営の基本方針となる施政方針を述べました。その内容を一部要約して紹介します。

※鹿屋市ホームページには全文が掲載してあります。

4つの基本姿勢で「かのや」をつくる

さて、私は市長に就任して以来、市民の安全・安心を基本に、地域産業の活性化や行政改革への取組など、全身全霊を尽くして市政運営に当たってまいりました。

私はマニフェストに、

- ・市民が主役の市政「対話」
- ・透明・迅速な市政「改革」
- ・地域が輝く市政「挑戦」
- ・大隅がひびきあう市政「飛躍」

の「4つの基本姿勢」を掲げ、「元気なかのやづくり」の実現を目指してまいりました。

対話

市民の声を市政に反映させるために「市長と語る車座会議」を、平成22年度に14中学校区で、平成23年度に10地区で開催し、平成24年度は21団体を対象に実施してまいりました。



▲ 市長と語る車座会議

また「元気なかのやづくり会議」においては、「街のにぎわいづくりによる中心市街地の活性化」と「かのやばら園の再生による元気なかのやづくり」の意見交換を行い、すぐに反映できるものは事業化するなど、スピード感を持って取り組んでまいりました。

このほか、輝北・串良・吾平地区の地域づくりのあり方について協議を行う、各総合支所主導の「地域再生会議」において意見を伺いながら、

改革

中長期的に健全財政を維持するため、第2次鹿屋市行政経営改革大綱を基本に、管理職手当や特別職等の給与の見直し、「第2次鹿屋市職員定員適正化計画」に基づく総人件費の抑制、事務事業の外部仕分けなど、徹底した行財政改革に取り組まれました。

挑戦

企業誘致の推進や、食品加工・製造業の起業、中心市街地の活性化への取組をはじめ、地域資源を活用した6次産業化への支援、優良肉用繁殖雌牛の更新促進、農業の担い手育成など、基幹産業である農業を中心に、地域を元気にする産業づくりに努めてまいりました。

さらに、誰もが安心できる

時代認識

これまで、我が国の経済は、円高、株安、デフレなど長期にわたり厳しい状況にありましたが、これらを打開するため、政府は日本再生に向け、「復興・防災対策」、「成長による富の創出」、「暮らしの安心、地域の活性化」の3つの分野に重点的に取り組むこととしていきます。

このことは、地方にとって地域の経済活性化に繋がるものと期待しており、本市としても、国の政策に対応した施策を積極的に講じてまいります。

とはいえ、地方を取り巻く環境は依然厳しく、本市においても、企業業績や雇用情勢の不安、少子高齢化や過疎化が進み、加えて高度成長期に集中的に整備された施設・道路・橋梁等の老朽化が進行する一方で、合併算定替えによる地方交付税が、平成28年度から段階的に縮減されることとなっており、更なる行財政改革を断行し、健全財政を堅持していく必要があります。

市政運営の基本姿勢

「ひと」「まち」「産業」

私は、このように厳しい時代ではありますが、限られた財源を駆使しながら、「元気なかのやづくり」を実現するため、平成25年度は「ひと」「まち」「産業」の活性化をテーマに、戦略的・重点的に取り組んでまいります。

まず「ひと」が元気になるためには、共生・協働社会の実現や、地域を支える人材育成などに力を入れる必要があることから、

- ・地域コミュニティ活動の充実
- ・強化や、共生・協働のまちづくりの推進
- ・各総合支所主導による、地域の特色を生かした「元気な地域づくり推進事業」の実施



▲ 美里あいらイメージキャラクター「うがやくん」

暮らしやすいまちづくりを推進するため、子ども医療費の助成制度の拡充や、大隅広域夜間急病センターを開設するなど、医療体制を強化したほか、市民の安全・安心を守るため、消防、防災、防犯、交通安全などの業務を一本化して、危機管理体制を強化するとともに、防災行政無線の施設整備などに取り組まれました。

そのほか、市民の利便性を向上させるため、総合窓口サービスを本年1月にスタートするとともに、豊かな自然と環境を次代に引き継ぐため、地球温暖化対策を推進するなど、市民サービスの向上や、住環境の整備、環境保全等にも積極的に取り組んでまいりました。



▲ 「動かない」「便利」な総合窓口

飛躍

将来を担う子どもたちの明るい未来を創造するため、輝北地区学校統廃合や花岡小中一貫校の整備、文化会館のリニューアル、韓国との学校交流やスポーツ交流、大隅定住自立圏による大隅広域図書館ネットワーク化などに取り組んでまいりました。

また、九州新幹線が全線開業したことから、鹿屋市への交流人口を増大させる取組として、私自ら先頭に立ち、大隅や福岡での観光客の誘客促進や本市特産品の紹介、かのやばら園のPR活動をするなど、鹿屋島中央駅・鹿屋間の直行バスの運行を行ってまいりました。

さらに、産学官による産業振興等を図るため、本市固有の資源であり知的財産でもある鹿屋体育大学と連携協定を締結し、スポーツ合宿まちづくり推進事業により、プロ野球、プロサッカー選手等の自主トレの誘致を行ったところ

です。
このほか、
・コミュニティバス（かのや



▲ イングリッシュローズガーデン

くるりんバス)の輝北・吾平地区への運行拡大
・日本最大規模となるイングリッシュローズガーデンの整備による「かのやばら園」のリニューアルオープン

- ・定住自立圏構想の新規施策「若手企業人地域交流プログラム」による大都市圏企業からの受入れ
- ・総務省・経済産業省、全国市長会等への積極的な職員派遣
- ・産業政策、交通政策、観光政策、人材育成など、多岐にわたる課題に取り組む、市民生活のさまざまな分野で「元気なかのやづくり」の実現に向けて、大きく前進できたと考えています。

また、「元気なかのやづくり会議」においては、「街のにぎわいづくりによる中心市街地の活性化」と「かのやばら園の再生による元気なかのやづくり」の意見交換を行い、すぐに反映できるものは事業化するなど、スピード感を持って取り組んでまいりました。